

日本国際連合学会第 21 回（2019 年度）研究大会プログラム

共通テーマ：「国連とリアルポリティーク」

国際社会が国際連盟を創設して 100 年が経つ。以来国家は国際機構を通じての多国間主義を展開し、共通の目的達成のために、国際協調を推進してきた。その一方で各国は、国際機構を舞台に、時に国際機構を利用しながら、自国の利益を追求すべくリアルポリティークを繰り広げてきたことも事実である。しかし今日の自国第一主義や排他主義の台頭においては、国連の理念実現のために必要とされる多国間主義と国際協調そのものの揺らぎが指摘されている。また新興国や途上国、あるいは NGO の役割が顕著になる中で、新たな規範やルールの形成において国連が引き続き重要視される一方、G20 形成のように国連の枠外での組織化、それに伴う国連の存在の相対化も指摘されている。

このような現実のなかで、果たして国連は、国際協調の牽引役を果たしているのだろうか。今年度の国連学会・研究大会では、昨今の国際社会の現実に照らし合わせながら、国連の掲げる理念・理想、そして国連の今日的意義を再評価する機会としたい。

【日時】

2019 年 6 月 29 日（土）10:00～18:00（受付開始：9:30）

【会場】

同志社大学・烏丸キャンパス 志高館 1F SK 1 1 2 教室

【住所】

京都市上京区烏丸通上立売上る相国寺門前町 647-

10:00～10:10 ≪開会挨拶≫

神余 隆博（日本国際連合学会理事長、関西学院大学 教授、国連・外交統括センター長）

10:10～11:10 ≪基調講演≫

基調講演者：中西 寛（京都大学大学院法学研究科 教授）

「国際政治の中の国際機関－20 世紀史の視点から」

司会：神余 隆博

11:20～13:00 ≪パネルディスカッション≫

司会・モデレーター：栗栖 薫子（神戸大学 教授）

パネリスト：青山 健郎（外務省総合外交政策局 国連制裁室長）「実務家の視点から」

小川 裕子（東海大学 准教授）「新興国と規範形成の視点から」

村田 晃嗣（同志社大学 教授）「アメリカの国連外交の視点から」

山田 哲也（南山大学 教授）「国連と秩序形成の視点から」

13:00~14:30 昼休み 企画・渉外・編集・広報委員会開催

14:30~16:00 <<研究報告>>

報告者：廣野 美和（立命館大学 准教授）

「中国外交における多国間主義と二国間主義：中国は国連をいつ『使う』のか」（仮題）

藤巻 裕之（東海大学 准教授）

「ロシアの国連外交と国内/域内政治」（仮題）

討論者：吉留 公太（神奈川大学 教授）

司会：山本 慎一（香川大学 准教授）

16:10~17:20 <<若手独立報告>>

報告者：越智 萌（ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究戦略センター 主任研究員）

「国際刑事司法機関の多様化と手続法の一般化」

大道寺 隆也（早稲田大学 助教）

「標的制裁に対する批判への国連安保理の対応——グローバルな異議申立デモクラシーの可能性」

司会：吉村 祥子（関西学院大学 教授）

17:20~18:00 総会

18:30~20:30 懇親会 於：同志社大学寒梅館 7 階・フレンチレストラン“Will”

* 会員以外の方にも傍聴いただけます。事前申し込みの必要はありませんので、当日受付で傍聴料 500 円をお支払いください。